

2022年度

中学 国際生入試B方式

時間50分 100点満点

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

□ 次の各問に答えなさい。

問一 次の——の漢字の読みを答えなさい。

- ① 有名な作家の全集を編む
- ② 社長を装うメールが来た
- ③ 成長著しい若手を抜擢する
- ④ 父の言いつけに背いてしまう
- ⑤ 試験が終わって軽やかな気分になる
- ⑥ ベテランのプレーに賛辞を贈る
- ⑦ 合格したら盛大にお祝いをしよう
- ⑧ 観光名所が念願の世界遺産へ登録された
- ⑨ 彼の偉大な成果にノーベル賞が授与された
- ⑩ 感染防止のため部屋の収容人数を少なくする

問二 次の——のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 今夜は山ヅいで積雪があるようだ
- ② 家族にササえられてここまでできた
- ③ 難局を切り抜けて安心感にツツまれた
- ④ 被災した人にトドけたいものを集める
- ⑤ あつという間に感染者数が増加にテンじた
- ⑥ 前監督が築いたドダイを引き継ぐ
- ⑦ 個で局面をダカイすることができる
- ⑧ 有益な情報をシュウヤクして提供する
- ⑨ 地球の誕生と生命のキゲンに迫る研究
- ⑩ ウイルスをフチャクさせない工夫をする

□ スポーツ雑誌『Gold（ゴールド）』の新米記者である「明日香」が、はじめてのインタビューとして横浜スタジアムを訪れる場面です。次の文章を読み、後の問に答えなさい。（、や。なども一字とします）

横浜スタジアムはJR関内かんない駅から徒歩二分という好立地にある。試合に向けての練習が始まる前、午後二時を指定され、カメラマンとは現地待ち合わせになった。一般客はスタジアムゲートに続くスロープを上がっていくが、関係者専用口はスロープの下にあるのでそちらに回った。

受付をすませているとカメラマンもやってきて、ふたりそろったところで球団広報に挨拶あいさつした。写真のプランはひとりが建物内の廊下ろうかや階段付近。ひとりはグラウンドに出て芝生しばふの上だそうだ。カメラマンがテストをしている間に、明日香は応接室で選手を待った。一日目は大垣芳春選手だ。

最初がベテランというのにプレッシャーも感じたが、雑念を振り払いレコーダーの準備をしているとノックされた。広報の人に連れられて大垣選手が現れる。身長百七十八センチ、体重七十六キロというのはけっして大柄おおがらではなく細身な方なのかもしれないが、鍛え抜かれた体かもしだす存在感は風格という言葉にふさわしかった。二重まぶたのくつきりした双眸そうぼうや、骨から口元にかけてのほっそりした顔つきが近寄りたいたい印象も与えるが、明日香の差し出した真新しい名刺めいしに、ほんのり微笑ほほえんでくれた。

「ああ、ほんとうにGoldの記者さんだ。Goldの取材は初めてなんですよ」

*双眸……両眼のこと

「そうですか。今日は貴重なお時間をちようだいして恐縮です。よろしく願います」

広報が同席し、ドア近くの椅子に座る。タイムキーパーも兼ねているのだろう。インタビューは二十分ほどと言われているので、こちらがもじもじしては収穫がなくなる。レコーダーでの録音の許可をもらってスイッチを入れる。椅子に座り直して、手元のノートを開く。ペンを握る。そして「さあ」とばかりに顔を上げたのだけれども、まっすぐこちらをみつめてくる強いまなざしに圧倒された。

今まで、スポーツをやっている人を見たことはあるが、そのスポーツを①生業なりわいとしてしている人から、意思のある視線を向けられたことはなかったのかもしれない。しかもメートルほどの至近距離だ。

「②すみません、あの、緊張してしまつて。(③)たいことはいろいろあるのですが」

「はこ」

「あのですね」

何か言わなくてはと焦るあまり、④いきなりトップギアから入つてしまつて。

「大垣さんの登板する試合を、去年、一昨年、そして今年の移籍後の分も拝見しました。中継ぎは試合途中からの登板ですよ。相手チームがリードしているとそちらの応援席は嵐のような騒ぎで、打て打てかつ飛ばせと大変な盛り上がりの中です。やりにくさみたいなのは、あつたりするんでしょうか」

首をかしげた大垣の視線が、明日香の顔から下に向けられるので、何かと思つたらペンを持つ自分の手が震えていた。

止めようとしても止まらない。頭に血がのぼる。ちがうと大きな声で言いたかった。こんなはずじゃない。

スポーツはからきしだったが舞台は好きで、学生時代は演劇部に所属していた。小道具を作ったり衣装を縫ったりしながら脇役をやるのがせいぜいだったが、学園祭の舞台では台詞のある芝居もした。観客は大勢いた。脂汗や冷や汗をかく経験ならば、それなりに積んできたはずなのに。

どうしよう。

「慣れですよ」

大垣はさらりと言った。明日香の手を見て口元をほころばせるので、よつぽどおかしかったらしい。

「場数を踏むのが一番だと思っっています。わたしも緊張しますよ。でも、何度も何度もマウンドに上がっているのです、この緊張はこれくらいだな、今日はすごいぞ、でもあのとときの方がもつとだ、これならなんとかなる、そんなふうに自分に言い聞かせられるようになりました」

明日香の脳裏に、マウンドに向かってかけていく彼の後ろ姿が浮かんだ。五回裏、先発ピッチャーが6点という大量点をゆるしたあと、二番手の投手までもノーアウトフルベースに追い込まれた。そこで次のピッチャーとして名前がコールされたのだ。

あのとときはどれくらい緊張だっただろう。大垣は犠牲フライで1点を取られたものの、後続のバッターを凡打や三振で抑えた。

「大垣さんの経験は十分生かされていますね」

「まだまだですよ」

「これからは勝ち試合への登板もあるかと思っています。それを希望してらっしゃいますか」
考え込むような顔になり、「どうかなあ」とつぶやく。

「どんな場面でも⑤涼しい顔でマウンドに上がり、打つ気満々の打者に最高のピッチングをお見舞みまいしたいです。やりたいのはそれなんだけど、うまくいかないときもありますからね。当面の目標は自分の底上げであって、他のことは考えられないな」

明日香はやつと感覚の戻った指先に力を入れた。ペンを握りしめる。

「大量点を取られたあとの回到登板するお気持ちを、うかがってもよろしいでしょうか。失礼な質問でなければいいんですけど」

「失礼かどうかを気にしてくれるんですか」

思わず「えっ」と詰つまったあと、あわてて言う。

「今までで、すでにしていましたか。でしたら申し訳わけありません」

「いえいえ」

社交辞令かもしれないが「いえいえ」に乗っかる。

「先月の試合でも、満塁ホームランを打たれて11対1という大差の付いたマウンドに、登ってらっしゃいました。私にはそういうときのピッチャーの胸の内が想像できなくて」

「相手チームの盛り上がり、水を差してやるのも投手の仕事です。そしてそれは、けっこう、楽しい」
区切りながらゆっくり口にする。目を細める。穏やかな紳士然とした彼が、ひとまわりもふたまわりも大きくなつたような気がする。

(⑥)とはこんなものかもしれない。明日香はペンを握つたまま身体を引いた。日に焼けた精悍な面差しには笑みさえ浮かんでいるが、その笑みの威圧感が半端ない。

広報から時間を告げられ時計を見ると、二十分を過ぎていた。あわてて話をまとめ、手厚く礼を言つて廊下に出た。待ち構えていたカメラマンを招き入れ、応接室で写真を撮らせてもらったのち、グラブを手にした姿を廊下や階段で撮影した。

その日の中日戦ではベ이스ターズが中盤までに2点勝ち越し、大垣の出番はなかった。ベ이스ターズのためにはよかったのだけでも、大量点を取られて大炎上しているマウンドに登場し、鎮火の水の如きピッチングを披露する大垣を見てみたかった。

(大崎梢『彼方のゴールド』)

問一 次の各問について答えなさい。

問A ①「生業」は、「せいぎよう」という読みもありますが、「なりわい」と読んで「生活を営むための仕事」を意味します。このように熟語に対する訓読みのことばを「熟字訓」と言い、「生憎^{あいにく}」や「欠伸^{あくび}」などがあります。

次の中からすべてが熟字訓のものを選びなさい。

ア、	大人 ^{おとな}	台詞 ^{せりふ}	流石 ^{さすが}	時雨 ^{しぐれ}
イ、	指示 ^{しじ}	行方 ^{ゆくえ}	強面 ^{こわもて}	明日 ^{あす}
ウ、	黒板 ^{こくばん}	田舎 ^{いなか}	果物 ^{くだもの}	現象 ^{げんしょう}
エ、	素人 ^{しろうと}	登山 ^{とざん}	保健 ^{ほけん}	区別 ^{くべつ}

問B ②について、明日香の緊張が表れている様子を十五字で抜き出しなさい。

問C (③)には「聞く」の敬語が入ります。「お聞きし」以外の敬語をひらがな四字で答えなさい。

問 D ——④ 「いきなりトップギアから入ってしまう」が意味することとして最もふさわしいものを選びなさい。

ア、不意に立ち往生おうじょうしてしまう

イ、だしぬけに本腰を入れてしまう

ウ、始めから歯車が合わなくなってしまう

エ、やにわに身もふたもない質問をしてしまう

問 E ——⑤ 「涼しい顔」とはどのようなものですか。最もふさわしいものを選びなさい。

ア、いばった顔

イ、穏やかな顔

ウ、何食わぬ顔

エ、心地よい顔

問F (⑥) には、「身がすくんで動けない」という意味の慣用句が入ります。それに最もふさわしいものを選びなさい。

ア、借りてきた猫

イ、猿も木から落ちる

ウ、生き馬の目を抜く

エ、へびに睨にらまれたカエル

問二 明日香には大垣選手がどのように見えていますか。最もふさわしいものを次の中から選びなさい。

ア、時折見せる穏やかな笑みに気を取り直す一方、経験に裏打ちされた貫禄かんろくと自分に厳しくする毅然きぜんとした姿勢に、

明日香は活躍かつやくを期待している。

イ、上品でしなやかな物腰はたくましさを感じさせず、質問をはぐらかすことで闘争心とうそうしんの素振りそぶも見せないので、

明

日香は戸惑いを隠せないでいる。

ウ、本当は人当たりがよく優しい人なのに、人を寄せ付けない迫力ある大きさと無骨さで誤解を与えてしまうのである

う、と明日香は残念そうに見ている。

エ、ベテランとしての威厳いげんが漂い、近寄りがたいオーラを持つてはいるが、インタビューにも慣れていて礼儀正しく

接する態度に、明日香は安心感を抱いている。

問三 二重線部について、明日香が大垣選手へのインタビューで得た「収穫」としてふさわしくないものを選びなさい。

ア、相手応援団の注目を集めることへの快感

イ、失点の可能性がある中で平常心を保つ方法

ウ、ピッチャーなのに勝敗をこだわらない理由

エ、負けが確定している試合へのモチベーション

問四 シーズン最終戦、五点差がついた八回裏、満塁まんるいの状況です。バッターボックスにはホームラン争い一本差でト

ップのバッターが立っています。次の各問いに答えなさい。

問A 負け試合が確定しそうな状況で登板する大垣選手の表情を、あなたが実況アナウンサーならどのように表

現しますか。解答用紙に従って答えなさい。

問 B 問 A のように表現した理由を答えなさい。

三 次の文章を読み、後の問に答えなさい。(、や。なども一字とします)

自立ということに関連して、個の確立というようなことも言われる。でも、親からの自立という青年期の課題をはるか昔に達成してしまった僕でさえ、個として閉じた形で自分が確立されている気がしない。

個の確立などというのは、日本人にとっては無縁のことなのではないだろうか。

子ども時代のように親の管理下に置かれて動くのではなく、青年期になったら自分で考え、自分で判断して動く。それはわかる。(①)、それでも他人の影響は受け続ける。けっして僕たちは、他者に対して閉じられた個として生きているわけではない。

(②)、僕が親の管理下から離れ、親から自立して動き始めた頃、何が僕の行動原理になっていたのだろうか。

思い返してみると、語り合う友だちや書物を通して出会った作家・思想家・科学者など、僕が共感する人や傾倒する人の価値観を基準に動いていたように思う。親とは違うものの方や考え方を主張するとき、親以外のだれかが僕の中で動いていた。

結局、僕たちは、個別性を自覚して生きるとはいつても、個として他者から切り離されて生きているわけではない。

さまざまな他者の影響を受けながら生きています。さまざまな他者との関係性を生きています。

相手があつて自分がある。ゆえに、親からの自立というのは、自分で取捨選択しながら親以外の人たちの影響を強く受けるようになっていくことを指すのではないだろうか。

個を生きるのではなく、他者との関係性を生きる僕たち日本人には、他者から独立した自分などというものはない。

そこで僕は、欧米おうえいの文化を「自己中心の文化」、日本の文化を「間柄あいだがらの文化」というように特徴づけている。

「自己中心の文化」とは、自分の言いたいことを何でも主張すればよい、ある事柄を持ち出すかどうか、ある行動を取るかどうかは、自分の意見や立場を基準に判断すべき、とする文化のことである。何ごとも自分自身の考えや立場に従したがって判断することになる。

欧米の文化は、まさに「自己中心の文化」と言える。そのような文化のもとで自己形成してきた欧米人は、何ごことに關しても他者に影響されず自分を基準に判断し、個として独立しており、他者から切り離されている。

そのような文化においては、他者の影響を受けることは、個が確立していないという意味で未熟とみなされる。

一方、「間柄の文化」とは、一方的な自己主張で人を困らせたたり嫌な思いにさせたりしてはいけない、ある事柄を持ち出すかどうか、ある行動を取るかどうかは、相手の気持ちや立場に配慮はいりよして判断すべき、とする文化のことである。何ごとも相手の気持ちや立場に配慮しながら判断することになる。

日本の文化は、まさに「間柄の文化」と言える。そのような文化のもとで自己形成してきた日本人は、何ごことに關し

でも自分だけを基準とするのではなく他者の気持ちや立場に配慮して判断するのであり、個として閉じておらず、他者に対して開かれている。(③)、たえず相手の期待が気になり、できるだけそれに応えようとするのである。

そのような文化においては、他者に配慮できないことは、自分勝手という意味で未熟とみなされる。

「自己中心の文化」においては「他者の影響を受ける」として否定的にみられることを、「間柄の文化」においては「他者に配慮できる」というように肯定的に評価するのである。

そのような「間柄の文化」においては、親からの自立を果たすためには、親との間柄に代わる重要な間柄が必要となる。関係性を生きる僕たちとしては、何らかの関係性がないと困る。自分を動かす行動原理がなくなってしまう。だからこそ、青年期には、お互いの内面を共有できるような親友を強く求めるのである。

親から自立し始めたものの、思いを共有できる親しい友だちもできない。書物などを通して傾倒する人物も見当たらない。このままでは関係性を生きる相手が見つからない。何とかわかりあえる友だちがほしい。

そう思って友だちとかかわってみるのだが、どうもしっくり来ない。仲がよいというのは確かなのだが、こっちの思っていることを話しても、今イチ伝わっていないような気がする。向こうの思っていることを聞いていても、よくわかることはもちろんあるけれども、共感できないこともある。(④)、かつての親に感じていたように、わかってくれている感じはない。

そのくらいならまだいいが、親しくなった友だちに内面的なことを話したら、「えっ、そんなこと考えたりするの？」と引かれたり、「そんな重たい話、よそうぜ」と拒否きよひされたりすることもある。信じていた友だちに、「あいつ、こんなこと考えてるんだよ、バカじゃねえ」などと言ひ触らされたりすることもある。

(⑤)、親しくなった友だちから内面的な話をされ、それが相当に病的な内容で、その感受性に圧倒され、どう反応したらよいかわからないこともある。誠意せいいをもって対応していたつもりなのに、向こうが納得するような反応ができなかったようで、気まずい感じになったり、バカにされたと勘違かんちがいしたのか、こちらの悪口を他の友だちに言っているのが伝わってきたりすることもある。

そうした経験をする、心の底から疲つかれてしまい、人間関係ってけっこうめんどうくさいなあと思う。わかり合える友だちをもつことが永遠に不可能なような気もしてきて、この世に一人投げ出されているような疎外感*そがいを感じる。

そんなとき、ふと幼い頃が無性に懐なつかしくなる。周囲から浮いている感じがなく、疎外感そがいなに苛さいまれることもなかった。「あの頃」に戻りたくなる。心理学用語で言えば退行、(⑥) 子ども返りである。

(榎本博明『「さみしさ」の力 孤独と自立の心理学』)

*疎外感……仲間外れにされていると感ずること

問一 文中の(①) () (⑥) に入ることばを次の中から選んで答えなさい。

では 反対に しかし つまり ゆえに ましてや

問二 ……について、これまであなたが共感した価値観を具体的に答えなさい。

問三 「間柄の文化」の特徴をふまえていない文章を選びなさい。

ア、感染の可能性が少なくなったとはいえ、世間の目が気になってハワイ旅行には行けない。

イ、そろそろテストも近いから、ゲームは控えめにして勉強に集中していこうと思っている。

ウ、大好きだった彼女と別れた彼に忬度そんたくして、大勢で盛り上がるような食事会を企画してみた。

エ、時間がないにも関わらず、関係のないことを発言する彼には、空気を読んでもらいたいものだ。

問四 「子ども返り」に至る説明として最もふさわしいものを選びなさい。

- ア、日本人は自立するためお互いの内面が共有できる親友を求める。そして、影響を受けた人や書物の価値観を語り合い、さらに親交を深めようとする。そこで、「子ども返り」をして、新しい価値観を求めようとする。
- イ、自立するためには自己中心的にふるまう必要があると日本人は考える。しかし、そうすると他者との関係が悪くなってしまう。そこで、自己中心的にふるまうことを一時的にやめるために「子ども返り」をしようとする。
- ウ、日本人は他者に対して開かれた「間柄の文化」の中で生活している。だから、親からの自立を図る時、親以外の他者の影響を大きく受ける。しかし、他者との人間関係がわずらわしく感じられて、「子ども返り」をしてしまう。
- エ、日本人は、他者との関わりを通して自分を確立していく。しかも、自己主張できることが自立だと考えて欧米の文化にあこがれる。だから、人間関係における失敗を経験すると、複雑な二重の文化から逃げ出そうとして「子ども返り」をする。

問五 「中二病」ということばがあります。それは飲めもしないブラックコーヒーを飲もうとしたり、興味がないのに洋楽を聞き始めたりすることを指します。「個の確立」という観点でこのような行動をする理由として最もふさわしいものを選びなさい。

ア、他者との関係性を生きるがゆえに、人と違うことをすることによって大人びた自分を認めてもらいたいと考えているから。

イ、親からの自立を試みようとするものの、親以外の大人は知らないため、親の行動から取捨選択して大人になろうと考えているから。

ウ、自立を試みたが、わかりあえる友達もできないので、人間関係を面倒なことととらえ、疎外感をあえて感じたいと考えているから。

エ、他者に影響されない自己中心の文化に憧れ、自分の意見や立場を基準に判断し、主張ができる欧米人と同じような自己形成をしたいと考えているから。

三				二										一						
問五	問四	問三	問二	問一		問四		問三	問二	問一						問二		問一		
				④	①	問B	問A			問F	問E	問D	問C	問B	問A	⑥	①	⑥	①	
							のような表情													
				⑤	②												⑦	②	⑦	②
				⑥	③												⑧	③	⑧	③
																	⑨	④	⑨	④
																	⑩	⑤	⑩	⑤

受験番号
座席番号
名前

2022年度
入学 考 査 問 題
国語・解 答 用 紙
聖 学 院 中 学 校